

第17回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(実践報告) 抄録用紙

|     |                                                                           |
|-----|---------------------------------------------------------------------------|
| 演題名 | もしもの時に備えて～患者本人の希望や思いを家族や医療者と話し合う<br>アドバンス・ケア・プランニング（ACP）普及活動の試み～          |
| 演者名 | 杉本 由起子1) 三上 雅美1) 楠部 滋2) 藤原 雅親2)<br>平松 恵一3) 本家 好文4)                        |
| 所属  | 1) 東広島地区医師会地域連携室 2) 東広島地区医師会<br>3) 広島県医師会 4) 広島県地域保健対策協議会終末期医療のあり方検討特別委員会 |

1) 目的

広島県地域保健対策協議会では患者の意思に沿った医療やケアを実現するために、終末期医療のあり方検討特別委員会を設置して検討を重ねてきた。本実践は、同委員会が作成したACPの手引きと「私の心づもり」シートを活用し、ACPを広島県全体に普及させるためのモデル事業を地域で実施することを目的とする。

2) 実践内容

①住民に対する普及：広島県東広島市内10か所の日常生活圏域で地域サロン等において約200名の市民を対象として普及啓発を実施し、調査用紙による効果の検証を行った。②医師に対する普及：115名の医師会員に対する普及啓発を実施し、調査用紙による効果の検証を行った。③訪問看護師の現状把握：在宅看取り20事例の聞き取りによる調査検証を実施した。

3) 実践効果

①住民：「私の心づもり」をまとめて「良かった」とする者が8割を超えた。またACPの5つの手順のうち「自分の思いを考える」手順が最も難しいが、満足度は高い結果であった。また他者に対する波及効果も認められた。②医師：「私の心づもり」を記入して持参する患者が数名おり患者の思いを共有することができたことから、今後もACPを勧めていきたいとしている。しかし、医師会員全体の積極的な取り組みにはつながっていない。③訪問看護師：本人や家族の心づもりを知り、ケアに活かすことで、在宅看取りの達成感につながった。

4) 考察

調査結果から、ACPが、患者が主体となる新たな医療文化を創出する可能性が示唆された。今後はACP普及啓発事業を広島県全体に広めていくために、より簡潔で分かり易い文章表現や、チーム間での「私の心づもり」の共有が課題となる。